



# おのみ



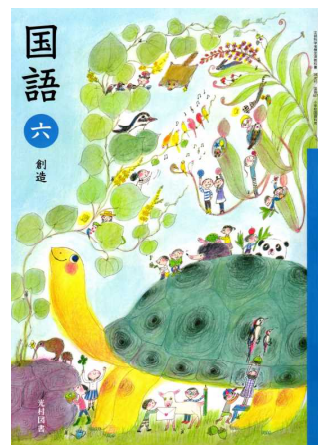
令和3年度 11月号  
志布志市立尾野見小学校

## 教科書を読んでみませんか。

校長 宗岡 克英

読書の秋です。10月から11月にかけては読書月間でしたので子ども達は本に触れる機会が多かったと思います。国語の教科書にも多くのすぐれた物語が収められています。6年生の教科書に掲載されている宮沢賢治の童話「やまなし」を紹介します。

この作品は、谷川の底に住むかのにの兄弟の視点を通して水中の情景や生き物たちの世界を描いています。物語の舞台は、晩春の5月の日中と初冬の12月の月夜の晩です。5月。二匹のかのにの兄弟があわをはきながら水底で話をしてしています。その頭上では魚が獲物を捕らえるために泳ぎ回っています。魚が泳ぎ回るたびに、水面を通して降り注ぐ光はゆれたり伸びたり縮んだり。そこに突然かわせみが水中に飛びこんできてその魚を捕らえます。このかわせみの動きによって水中はさらにかき回され、彩られます。水面を通して降り注いでいた光のあみは大きくゆれ、あわがつつつと流れます。父親はこわがる子ども達を安心させようとして水面を流れる白い花を見せます。12月。かのにの兄弟も成長し、川底の景色も夏から秋に変化しています。二匹のかのにの兄弟はまた水底で話をしながらあわの大きさ比べをしています。そこに「ドブン」と黒い丸い大きなものが天井から落ちてきました。兄弟はこわがりますが、お父さんがそれはかわせみではなくやまなし（沢沿いに自生するなし）だよと教えてくれます。月明かりが降り注ぐ水の中は、熟したやまなしのいいにおいでいっぱいになります。そしてちょっとした幸福感に包まれたかのにの親子は巣穴に帰っていきます。水中の中の情景がストーリーの展開にしたがって変化していきます。そしてその変化のひとつひとつが色彩豊かに描かれていきます。この作品



を読む子ども達は、この文章から色彩を感じます。そして音や匂いも感じます。一人ひとりの子ども達の頭の中にそれぞれの映画「やまなし」が上映されているはずです。ストーリーにメロディを感じ、色彩豊かな情景描写に様々な楽器の音色を聴いているかもしれません。素晴らしい物語は、子ども達の五感を刺激し、豊かな想像力を育ててくれます。

教科書にはこの他にも多くの素晴らしい物語が掲載されています。深まる秋の夜に読んで、子ども達とその作品について話してみてもいいのではないでしょうか。

6年生の子ども達が「やまなし」を読んで想像した情景を絵に描いていますのでいくつか紹介します。

